科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」
基盤的研究・人材育成拠点事業　第３期中期計画

１．　大学・機関名／代表者氏名（所属機関・役職）：

大学・機関名：政策研究大学院大学　科学技術イノベーション政策研究センター 責任者：　角南　篤　　センター長／客員教授（令和３年４月１日～令和５年３月 31 日） 　　黒澤　昌子　センター長／教授　　（令和５年４月１日～ ）

２．　中期計画期間

令和　３年　４月　１日　　～　　令和　８年　３月　31 日

３．　第３期期間（R3～R7 年度）において拠点として達成すべき目標・計画

S-3-0.　政策研究大学院大学の科学技術イノベーション政策研究センター（SciREX センター）では、第３期期間において、SciREX 事業の全体の円滑な推進と事業終了後の基盤研究・人材育成拠点における人材育成等の継続を目標に掲げ、（第２期中間評価の指摘も踏まえ）、以下の取り組みを行う。取り組みにあたっては、総合拠点である GiST と SciREX センターとの適切な役割分担に留意し、以下の活動に SciREX センターとして取り組む。

S-3-1.　SciREX 事業の運営委員会を文部科学省とともに開催し、その場等を通じ、事業終了後を見据えた各大学の取り組みに係る情報の共有、拠点間連携の促進、研究プロジェクト等の取りまとめやフォローアップを行うとともに、サマーキャンプを実施する等により拠点・関係機関間連携を文部科学省とともに促進する役割を担う。

S-3-2.　科学技術イノベーション政策を中心とした公共政策が今後取り組むべき具体的な政策課題や潜在的政策ニーズを発掘するため、政策担当者と研究者、関係者が議論する研究会やセミナーなどを企画実施するなど、多様な専門性、知見や経験が触発し会う場を運営する。

S-3-3.　SciREX 事業の成果のアウトリーチやネットワークの拡大のため、SciREX 事業における各機関・拠点の取り組みや研究成果などについて、Web、セミナー、フォーラムなどを通じた情報発信を行い、成果を可視化する。

S-3-4.　科学技術イノベーション政策のための科学が対象とする学際的研究領域の確立に向けた検討として、その領域の外縁、構造等を明らかにするコアコンテンツについて、その活用促進と改訂のあり方をコアカリキュラム編集委員会で検討し、センターはコアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、同委員会の活動を支援する。

S-3-5.　現役の行政官が科学技術イノベーション政策の政策形成プロセスや実践に係わる知識体系を習得することや、政策当局に対して「政策のための科学」についての知見や方法論の普及を目的とした行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。

S-3-6.　共進化実現プログラムの円滑な推進のため、その運営をセンターが文部科学省とともに担当する。

S-3-7.　我が国における科学技術イノベーション政策を対象とした EBPM の在り方や推進方策について、SciREX 事業発足当初からの時代変化や共進化を目指す類似のアプローチ、他国の事例、共進化実現プログラムにおける取組事例等を踏まえながら検討する共進化方法論に関する調査研究を実施し、事業終了後も見据えつつ、共進化を促す研究プログラムの運営や STI 政策を対象に EBPM に取り組む行政官及び研究者の活動の参考となる情報として提供する 。

※第２期期間における中間評価結果等も踏まえ、第３期において強化すべき取組等について記載。

４．　事業終了後を見据えた計画

S-4-1.　SciREX 事業の運営委員会等において、事業終了後の基盤研究・人材育成拠点における人材育成等の継続のため、事業終了後を見据えた各大学の取り組みに係る情報を共有する。

S-4-2.　共進化方法論に関する調査研究の成果を、関係機関・各拠点における事業終了後の活用を促すため、文部科学省や SciREX 関係機関、基盤研究・人材育成拠点に提供する。
S-4-3.　補助事業終了後においても、学内規則で設置された「科学技術イノベーション政策研究センター」を大学において維持することとし、必要な教職員の雇用財源の確保に向けた検討を行う。

S-4-4.　補助事業終了後のセンター機能において、SciREX 事業にて培った共進化方法論に関する調査研究やコアコンテンツなどの成果をアーカイブするとともに、発展させることが重要と考えており、それらの成果を、基盤研究・人材育成拠点の後継組織、文部科学省や SciREX 関係機関に提供することとし、文部科学省及び大学運営当局と必要な調整を進める。

※事業終了時点までの取組計画について、特に自立化に向けた計画を含めて具体的に記載。自立化については、運営（人件費の内製化、専任教職員の確保）、人材育成（講義、カリキュラム、サーティフィケーション、学位などの人材育成プログラムの定常化）などの観点を具体的に記載。

５．　事業終了以降の科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」への関わり方の展望

S-5-1.　コアカリキュラム編集委員会の事務局としてその編纂を支援したコアコンテンツの提供により、政策のための科学の発展に協力する。

S-5-2.　第３期期間中に共進化方法論に関する調査研究を実施し、その成果を科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」に関与する研究組織や研究者・行政官・実務家に提供することにより、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の発展に貢献する。

※事業開始から蓄積された成果やネットワークについて、その後の持続可能性も勘案して、事業終了以降の維持・拡大や活用の方策を記載。特に、当該コミュニティにおいて組織的な取組として目指す目標や展望を記載。

６．　基盤的研究・人材育成拠点としての個別の目標

※第２期期間における中間評価結果等も踏まえ、第３期期間（R3～R7 年度）における目標や事業終了以降の活動方針について、下記の４項目ごとにそれぞれ記載。

※記載に当たっては、①第３期期間における目標（事業終了時点で目指す姿)、②目標設定の考え方や論拠、③KPI（特に内製化・自立化に関するものを含める)、④事業終了以降の活動方針に関してそれぞれ記載。

（KPI の例：テニュア教員の人数、定常的なカリキュラムへの移行割合など）

※また、拠点間連携や SciREX 事業の関係者以外との連携、アウトリーチ活動等についても積極的に記載。

（１）人材育成

「３．第３期期間（R3～R7 年度）において拠点として達成すべき目標・計画」の人材育成関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における各拠点における人材育成活動に貢献する。

・ センターはコアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、コアコンテンツの活用促進と改訂のあり方を検討する同委員会の活動を支援する。(S-3-4.)

・ 現役の行政官が科学技術イノベーション政策の政策形成プロセスや実践に係わる知識体系を習得することや、政策当局に対して「政策のための科学」についての知見や方法論の普及を目的とした行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。(S-3-5.)

【効果測定に関する KPI】

・ コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数：３回程度／年度
・ 行政官研修の履修者数：１５名程度／年度

（【自立化進捗に関する KPI】--センターには馴染まない目標として記載しない）

（２）研究・基盤

「３．第３期期間（R3～R7 年度）において拠点として達成すべき目標・計画」の研究・基盤関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における各拠点における研究・基盤活動に貢献する。

・ 「政策のため科学」が対象とする学際的研究領域の確立に向けた検討として、その領域の外縁、構造等を明らかにするコアコンテンツについて、その活用促進と改訂のあり方をコアカリキュラム編集委員会で検討し、センターはコアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、同委員会の活動を支援する。(S-3-4.)

・ 共進化実現プログラムの円滑な推進のため、その運営をセンターが文部科学省とともに担当する。(S-3-6.)

【効果測定に関する KPI】
・ 管理運営する共進化プログラムのプロジェクト件数：10 件程度（準備ステージ等を除く）／年度
・ コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数 ：３回程度／年度（（１）の再掲）

（【自立化進捗に関する KPI】--センターには馴染まない目標として記載しない）

（３）共進化

「３．第３期期間（R3～R7 年度）において拠点として達成すべき目標・計画」の共進化関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における各拠点等における共進化活動に貢献する。

・ 共進化の一方の担い手となる中堅・若手行政官に対し、エビデンスに基づく政策立案に係る知見や「政策のための科学」についての知見や方法論を習得させる行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。（S-3-5.）

・ 共進化実現プログラムの円滑な推進のため、その運営をセンターが文部科学省とともに担当する。（S-3-6.）（（２）の再掲）

・ 我が国における科学技術イノベーション政策を対象とした EBPM の在り方や推進方策について、SciREX 事業発足当初からの時代変化や共進化を目指す類似のアプローチ、他国の事例、共進化実現プログラムにおける取組事例等を踏まえながら検討する共進化方法論に関する調査研究を実施し、事業終了後も見据えつつ、共進化を促す研究プログラムの運営や STI 政策を対象に EBPM に取り組む行政官及び研究者の活動の参考となる情報として提供する 。（S-3-7.）

【効果測定に関する KPI】
・ 行政官研修の履修者数：１５名程度／年度（（１）の再掲）
・ 管理運営する共進化プログラムのプロジェクト件数：10 件程度（準備ステージ等を除く）／年度（（２）の再掲）
・ 共進化方法論の報告書とりまとめ

（【自立化進捗に関する KPI】--センターには馴染まない目標として記載しない）

（４）ネットワーキング

「３．第３期期間（R3～R7 年度）において拠点として達成すべき目標・計画」のネットワーキング関連の記載を目標に、以下に記載の活動に取り組み、事業終了以降における各拠点等におけるネットワーキング活動に貢献する。

・ SciREX 事業の運営委員会を文部科学省とともに開催し、その場等を通じ、事業終了後を見据えた各大学の取り組みに係る情報の共有、拠点間連携の促進、研究プロジェクト等の取りまとめやフォローアップを行い、拠点・関係機関間連携を文部科学省とともに促進する役割を担う。（S-3-1.）

・ 拠点間共同プログラムとしての各拠点の協力を得て、サマーキャンプを実施する。（S-3-1.）

・ SciREX 事業に関係するプロジェクトの成果や進捗報告を題材に、政策担当者、研究者及び関係者が率直な議論を行える場として、SciREX セミナーを開催する。（S-3-2.）

・ SciREX 事業の取組、成果を発信するとともに、STI 政策関係者や等と STI 政策の課題をオープンに議論し、課題に対する認識の向上、ニーズの把握等を目的として、オープンフォーラムを開催する。（S-3-2.）

・ SciREX 事業に理解のある行政官を政策リエゾンに委嘱し、SciREX 関係機関が主催する研究会やセミナーへの参加、共進化実現プロジェクトへの参画、事業運営に対する各種のアドバイスの提供を得る。（S-3-2.）

・ SciREX 事業の成果のアウトリーチやネットワークの拡大のため、SciREX 事業における各機関・拠点の取り組みや研究成果などについて、Web、セミナー、フォーラムなどを通じた情報発信を行う。（S-3-3.）

【効果測定に関する KPI】
・ 事業推進運営委員会の開催件数：３回／年度
・ サマーキャンプへの参加学生数：５０名以上／年度
・ SciREX セミナーの開催回数：４回程度／年度
・ オープンフォーラムの開催回数：２回以上／５年間（注：令和３年度の一連のイベントは１回とカウント）
・政策リエゾンの委嘱総数：30 名程度

（【自立化進捗に関する KPI】--センターには馴染まない目標として記載しない）

７．　年度計画及び達成目標

R3 年度	年度計画	（１）人材育成 ・　コアカリキュラム編集委員会の事務局を務める。 ・　コアコンテンツの活用促進と改訂のあり方をコアカリキュラム編集委員会で検討する。 ・　行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。
		（２）研究・基盤 ・　（（１）のコアカリキュラム編集委員会の記載参照） ・　共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当する。 ・　センターの研究者を代表とする共進化実現プロジェクトを実施する。
		（３）共進化 ・　行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。（（１）の再掲） ・　共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当する。（（２）の再掲） ・　共進化方法論に関する調査研究を実施する。
		（４）ネットワーキング ・　SciREX 事業の運営委員会を文部科学省とともに開催する。 ・　各拠点の協力を得て、サマーキャンプを実施する。 ・　SciREX セミナーを開催する。 ・　オープンフォーラムを開催する。 ・　政策リエゾン制度を維持し、リエゾンを活用する。 ・　SciREX 事業の活動や成果に関する情報を発信する。
	達成目標	（１）人材育成 人材育成について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数：３回程度 ・　行政官研修の履修者数：１５名程度
		（２）研究・基盤 研究・基盤について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　共進化実現プロジェクト件数：（実現ステージ）９件、準備ステージ別総数）５件
		（３）共進化 共進化について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　（再掲分は（１）（２）参照） ・　共進化方法論の報告書のとりまとめ

		（４）ネットワーキング ネットワーキングについて、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ 事業推進運営委員会の開催回数：３回 ・ サマーキャンプへの参加学生数：５０名以上 ・ SciREX セミナーの開催回数：４回程度 ・ オープンフォーラム開催回数：１回（一連のウェッブイベントを１回とカウント） ・ 政策リエゾンの委嘱総数：３０名程度
R4 年度	年度計画	（１）人材育成 ・ コアカリキュラム編集委員会の事務局を務める。 ・ コアコンテンツの活用促進と改訂のあり方をコアカリキュラム編集委員会で検討する。 ・ 行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。
		（２）研究・基盤 ・ （（１）のコアカリキュラム編集委員会の記載参照） ・ 共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当する。 ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムにおけるセンターの役割を文部科学省とともに検討する。 ・ センターの研究者を代表とする共進化実現プロジェクトを実施する。
		（３）共進化 ・ 行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。 ・ 共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当する。（（２）の再掲） ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムにおけるセンターの役割を検討する。（（２）の再掲） ・ 共進化方法論に関する調査研究を継続して実施する。 ・ 共進化方法論に関する調査研究の成果を踏まえ、共進化実現プログラムの後継プログラムの在り方について文部科学省に情報提供する。
		（４）ネットワーキング ・ SciREX 事業の運営委員会を文部科学省とともに開催する。 ・ 各拠点の協力を得て、サマーキャンプを実施する。 ・ SciREX セミナーを開催する。 ・ 政策リエゾン制度を維持し、リエゾンを活用する。 ・ SciREX 事業の活動や成果に関する情報を発信する。

	達成目標	（１）人材育成 人材育成について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数：３回程度 ・ 行政官研修の履修者数：１５名程度
		（２）研究・基盤 研究・基盤について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ 共進化実現プロジェクト件数：（準備ステージ除く）10 件程度
		（３）共進化 共進化について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ （再掲分は（１）（２）参照） ・ 共進化方法論の報告書のとりまとめ
		（４）ネットワーキング ネットワーキングについて、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ 事業推進運営委員会の開催回数：３回 ・ サマーキャンプへの参加学生数：５０名以上 ・ SciREX セミナーの開催回数：４回程度 ・ 政策リエゾンの委嘱総数：３０名程度
R5 年度	年度計画	（１）人材育成 ・ コアカリキュラム編集委員会の事務局を務める。 ・ コアコンテンツの活用を促進するとともに、その改訂を進める。 ・ 行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。
		（２）研究・基盤 ・ （（１）のコアカリキュラム編集委員会の記載参照） ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムにおいて適切な役割を果たす。
		（３）共進化 ・ 行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。 ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムにおいて適切な役割を果たす。（（２）の再掲） ・ 共進化方法論に関する調査研究を継続して実施する。

		（４）ネットワーキング ・ SciREX 事業の運営委員会を文部科学省とともに開催する。 ・ 各拠点の協力を得て、サマーキャンプを実施する。 ・ SciREX セミナーを開催する。 ・ 政策リエゾン制度を維持し、リエゾンを活用する。 ・ SciREX 事業の活動や成果に関する情報を発信する。
	達成目標	（１）人材育成 人材育成について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数：３回程度 ・ 行政官研修の履修者数：１５名程度
		（２）研究・基盤 研究・基盤について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ 共進化実現プログラムの後継プログラムのプロジェクト件数：（今後状況をみて設定）
		（３）共進化 共進化について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ （再掲分は（１）（２）参照） ・ 共進化方法論の報告書のとりまとめ
		（４）ネットワーキング ネットワーキングについて、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・ 事業推進運営委員会の開催回数：３回 ・ サマーキャンプへの参加学生数：５０名以上 ・ SciREX セミナーの開催回数：４回程度 ・ 政策リエゾンの委嘱総数：３０名程度
R6-7 年度 ※第３期後半の各年度計画・目標については後日に改めて策定いただきます。	年度計画	（１）人材育成 ・ コアカリキュラム編集委員会の事務局を務める。 ・ コアコンテンツの活用を促進するとともに、その改訂を進める。 ・ 事業終了後のコアコンテンツの在り方について、人材育成拠点とともに検討する。 ・ 行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。 ・ 事業終了後の行政官研修の在り方について文部科学省とともに検討する

		（２）研究・基盤 ・　（（１）のコアカリキュラム編集委員会の記載参照） ・　共進化実現プログラムの後継プログラムにおいて適切な役割を果たす。
		（３）共進化 ・　行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施する。 ・　共進化実現プログラムの後継プログラムにおいて適切な役割を果たす。（（２）の再掲） ・　必要に応じて、共進化方法論に関する調査研究を実施する。 ・　事業終了後を見据えて、共進化方法論の調査研究の成果を関係各方面に提供する。
		（４）ネットワーキング ・　SciREX 事業の運営委員会を文部科学省とともに開催する。 ・　各拠点の協力を得て、サマーキャンプを実施する。 ・　SciREX セミナーを開催する。 ・　オープンフォーラムを開催する。 ・　政策リエゾン制度を維持し、リエゾンを活用するとともに、事業終了後の政策リエゾン制度のあり方について検討する。 ・　SciREX 事業の活動や成果に関する情報を発信する。（R3 年度同）また、SciREX 事業にて行った共進化方法論に関する調査研究やコアコンテンツなどの成果をアーカイブして関係機関に提供するための方策について検討し、必要な調整を進める。
	達成目標	（１）人材育成 人材育成について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数：３回程度 ・　行政官研修の履修者数：１５名程度
		（２）研究・基盤 研究・基盤について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　共進化実現プログラムの後継プログラムのプロジェクト件数：（今後状況をみて設定）
		（３）共進化 共進化について、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　（再掲分は（１）（２）参照） ・　共進化方法論の報告書のとりまとめ

		（４）ネットワーキング ネットワーキングについて、本年度において以下の達成を目指す。 【KPI】 ・　事業推進運営委員会の開催回数：３回 ・　サマーキャンプへの参加学生数：５０名以上 ・　SciREX セミナーの開催回数：４回程度 ・　オープンフォーラムの開催回数：１回以上 ・　政策リエゾンの委嘱総数：３０名程度

※年度計画は、６.(1)-(4)について、最終目標を見据えながらそれぞれ具体的に実施内容を記載。

※達成目標は、何をいつまでにどの水準まで実施するのか記載のうえ、６.の KPI についても具体的に目標値を記載。特に、事業終了時を見据えた内製化・自立化についても、進捗目標を具体的に設定。

８．　平成 23 年度構想調書方針からの目標の修正・追加等

（該当なし）